

## 第6回「初心を忘れるべからず」

巢鴨地蔵通り商店街振興組合 松宮秀明さん

鼓友と鴨台盆踊りの関わり合いについて聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「**おうだい3meets**」。第6回は、大正大学の近隣にある巢鴨地蔵通り商店街振興組合の理事長をされております松宮秀明さんに、巢鴨納涼盆踊り大会が始まったきっかけや伝統の木組み櫓のお話、そして、今後の大正大学の鴨台盆踊りが今後地域と関わっていくヒントをお聞きました。

お話しいただいた人

### 松宮 秀明さん



巢鴨地蔵通り商店街振興組合の理事長。

温泉旅行や、京都の割烹料理屋を散策することや和太鼓を叩くことが趣味で学生時代はスキーに夢中。

インタビュアー

### 五十嵐 泰一



仏教学部4年の大学生

鴨台盆踊りの運営に携わるのは、今年が初めてな新参者。

自転車で旅をしたり、読書をしたりするのが趣味

#### 1. 巢鴨納涼盆踊り大会と櫓について



本日はよろしくお願いたします。最初に巢鴨納涼盆踊り大会は1980年代に復活されたと聞いたのですが、なぜ復活させようと思われたのですか？



地域の人との繋がりを持たせたいというのが一番です。そのために踊り手や鼓友（和太鼓の団体）を作ったりして、盆踊りをしていこうと考えたんですよね。実は私は鼓友立ち上げからのメンバーなんですよ（笑）



そうだったんですね、鼓友の立ち上げから関わっていたなんて驚きです。



元々、地域の繋がりを作っていきたいってことで、巣鴨の人達と一緒にになって立ち上げたんです。子どもから参加してそこからお母さんが参加するという感じでしたが、意外と子どもよりお母さんの方が長くやっている人もいますよ。そうやって、今では40人以上の大きな団体になりましたが、当初は、大人ばかりの小さな団体だったんです。大塚の方で太鼓を披露した時に子供たちが結構見てくれて、それがきっかけで太鼓やりたいという子が増えていきました。



鼓友の誕生にはそんな秘話があったんですね。そのようにして地域との関わり合いが盆踊りによって生まれていったんでしょうか。



やはり盆踊りの素晴らしいところというのは、地域とのつながりを作れることなんです。盆踊りがあるからこそ年に一回しか会えない方と会えて、お祭りで汗をかいて喉がカラカラになったときに、うまい酒を飲んで仲良くなっていく。これが最大の魅力だと思います。



なるほど、特別な時でしか会えない人っていらっしゃるもんね。そのようにして巣鴨納涼盆踊り大会が作られていったんですね。櫓はその頃立てられたのですか？



櫓は元々、巢鴨納涼盆踊り大会当初からありました。この櫓は、パイプではなくヒノキで作られています。



巢鴨納涼盆踊り大会で使用されている総ヒノキの櫓



すごいですね。費用はどれくらいしたんですか？



櫓の組み立てから撤収まででだいたい50万くらいかな。材料費で100万円するから、150万円ほどかかりました。



ええ 150万円！！ ものすごい費用がかかっているんですね？！



本当高かったんですよ。ただ、巢鴨納涼盆踊り大会が、1回や2回限りで終わってほしくないという思いがあってこそなんですよ。だから、櫓もしっかりといいものを使うことにしたんです。やはり、まずは続けることに意味がありますから。



1回限りで終わらせない、これからも続けていくという意志から、ヒノキの櫓が生まれたのです。



取材の様子

## 2. 鴨台盆踊りと地域の関わりについて



続いて、大正大学の鴨台盆踊りにはどのような印象をお持ちですか？



今ではすごく大きくなって、大正大学さんの宣伝効果としてもすごいですよ。10年間続けてきたことは素晴らしいことだと思いますよ。



コロナ禍前の鴨台盆踊りの様子



確かに、お祭りを開けば、大学の宣伝になりますもんね。考えたこともありませんでした（笑）

でも、先ほどの巢鴨納涼盆踊り大会の話と一緒に、鴨台盆踊りも続けていくことが必要だと思うんですよ。



樽を取り囲んで、盆踊りを踊っていれば、「おお 盆踊りやってるんだ」って言いながら、自然と人が集まってくるじゃないですか。そうやって、毎年、毎年やっていくことで、少しずつ地域の人に知られていくことがあると思うんですよ。



やはり続けるというのは、とても重要なことなんですね。



そうだと思います。

ただ、鴨台盆踊りがもっと地域に根付いていくには、僕は基礎を疎かにしないということが大切だと思うんですよ。



基礎を疎かにしない、ですか…？



よく「初心を忘るべからず」という言葉がありますよね。あの言葉のように、何回も何回も盆踊りを開いていくと、どんどん新しいことをやろうと企画が大きくなっていってしまっ、企画倒れになってしまうことがあるんですよ。



なるほど 「初心に忘れるべからず」ですか… 納得です。



だからこそ、大事なのは初心に帰ることなんですよ。みんな盆踊りを楽しみに来られるわけで、企画がいくら壮大なものをしたとしても、メインは盆踊りのはず。企画に行きたくて、盆踊りにいってことはないでしょ？



確かにそうですね。私も、盆踊りという文字に惹かれて参加していましたね。



そうなんですよ！ だからこそ、盆踊りを中心としたものであるべきなんですよね。企画は、盆踊りというメインイベントを引き立て脇役であるべきで、主役ではないんですよ。だからこそ、盆踊りという基礎を大事にして、盆踊りという主役を引き立てられるような企画な関係がベストなんですよ。



なるほど、だからこそ 初心に帰るなんですね。



そう！ 「シンプルイズベスト」ということです。それを大事にしていけば、鴨台盆踊りはもっと地域から愛される盆踊りになっていくと思いますよ。



ありがとうございます。「初心を忘れず」に頑張っていきたいと思います。

### 3. 大正大学と地域の関わりについて



最後に大正大学と地域の関わり合いについてどのようにお感じになりますか？



大正大学さんは、「座ガモール」という日本各地の物産品を扱うお店をしてくれたりして、本当にありがたい存在だなと思うんですよ。やはり、巣鴨という地域は、観光客で成り立っていた部分があるんです。なので、新型コロナウイルスのせいで大打撃だったんですよ。



やはり、そうだったんですね。



そのような中、大正大学さんは次々と、お店を開店してくれました。そうしていくと、巣鴨のブランドが保たれていくんですよ。



「巣鴨のブランド」、ですか！？



例えば、コロナの影響で、閉店したお店が出てきてしまうとシャッターが多く並び、商店街の見栄えが悪くなってしまっでどんどん客足が遠のく。大正大学がお店を開けてくれるおかげで、活気がある商店街になっていくことができるんですよ。だからこそ、本当に大正大学には感謝しています。



そのような形で、大正大学が地域に貢献していたなんて！大正大学の学生として誇らしい気持ちになりました（笑）





本当にそうですよ！

今では、巣鴨プリンと一緒に連携して売り出したりしているんだけど、食べたことありますか？



はい！ 大学でも売っていて食べました。とてもおいしかったです！



すかもプリン



美味しいですよ。ただ、巣鴨地域だけでなく、全国に知れ渡るようなものにしていきたいなと思っています。



確かに、もっと全国に名が知られるようになってほしい、と私も思います！



そのためには、まずは続けることが重要です！ これからも、大正大学と一緒に頑張っていこうと思っています！

今回、取材を通して感じたのは、「何事も継続して行うこと」そして、「初心を忘れず基礎を大事すること」です。私たちは何事も、目先の利益や、派手さに囚われてしまいがちです。しかし、地道にしっかりと継続し後に残すことや、基礎をしっかり築いていくことが最も大事だと私は松宮さんに教えていただきました。そして、盆踊りを際立たせるような企画をおこなっていき、それを継続させていく長期的視点こそが、地域と深く関わっていくヒントなんだということを感じさせられました。

記事 仏教学部仏教学科仏教学コース4年 五十嵐泰一  
お話を聞いた日2021年7月1日